

公益財団法人日本バスケットボール協会

2022 年度 7～6 月期事業方針

昨今は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外のスポーツを取り巻く環境が大きく変化していることに加え、働き方改革やダイバーシティー、脱勝利至上主義などの推進により、スポーツやバスケットボールの価値や在り方そのものが問われ始めている。一方で、女子日本代表が東京オリンピックにおいて史上初となる銀メダルを獲得し、アジアカップでも 5 連覇を達成するなど輝かしい成績を残したことで、バスケットボールが俄かに注目を集めている。JBA としてはこのような情勢において、バスケットボールファミリーが一丸となった「ALL バスケ体制」により、競技の更なる普及・育成・強化を推し進め、バスケットボールの価値を高めるとともに、ファミリーの拡大に努める。

◇事業方針【2022 年度 7～6 月期】

- ① 「バスケで日本を元気に」の理念のもと、コロナ禍でも【する・みる・ささえる】環境を維持・発展させる
- ② 「JBS2021」の方針・目標の達成に向けた中期経営計画の実施

◇重点実施事項【2022 年度 7～6 月期】

- 2023 年 FIBA ワールドカップ、2024 年パリ五輪（男女 5 人制・男女 3 人制）に向け、強化体制を構築する
- 都道府県バスケットボール協会、トップリーグ、各種連盟等との連携を強化し、刻々と変化する状況に臨機応変に対応しながら事業を遂行するとともに、バスケットボール価値向上に努める
- 新型コロナウイルス感染症対策を講じ、関わる方々の安全・安心を確保した上で、日本代表戦やウインターカップをはじめとする JBA 主管大会を開催し、バスケットボールの価値向上に努める
- 「JBS2021」の実現に向け、最適な組織体制を構築、より効率的・効果的な組織運営を行う
- 暴力暴言等根絶の実現に向け、ALL バスケ体制で各種施策を推進する
- JBA 未登録競技者層（ファーストスポーツ含む）へのアプローチに向けた施策の検討実施を行う
- 競技者に加え、審判/指導者、TO 等の登録を推進することで、バスケットボールの質を向上させ、バスケットボールファミリーの拡大を図る
- リーグ戦文化の醸成等、選手育成や競技環境の充実に向けた各種事業の実施・制度設計を行う
- 2023 年 FIBA ワールドカップに向け、ステークホルダーとの連携を強化し、準備を進める

◇主要活動

1. 関連組織との連携

(1) JBA、PBA（都道府県協会）、BLG、WJBL、各種連盟、協力団体等との連携強化

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた組織活動におけるサポートの実施
- ② PBA 連絡会、全国専務理事連絡会等を通じた組織基盤の向上
- ③ 日本社会人バスケットボール連盟（JSB）、全日本大学バスケットボール連盟（JUBF）の事業推進へのサポートおよび組織基盤強化に向けた規程整備の指導等
- ④ 日本障がい者バスケットボール連盟（JIBF）加盟団体の活動推進および JIBF 事務業務のサポート
- ⑤ 協力団体（全国高体連専門部、中体連、専門学校、定通制、高専、スペシャルオリンピックス日本）との定例会議の実施および活動連携協力

- ⑥ 全国/都道府県アンダーカテゴリー（U12/U15/U18）における活動の推進および会議体の実施
- ⑦ ブロック協会およびブロック事業における補助および連携強化

(2) 登録推進および普及活動

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた対応方針策定および都道府県等へのサポート
- ② 登録推進における現状登録制度の見直しおよび運用体制/システムの構築
- ③ 競技者人口拡大に向けた各カテゴリーの競技環境の再整備
- ④ 普及事業の立案および実施計画の策定
- ⑤ 登録制度の見直しと並行した、D-fund 制度の見直し検討
- ⑥ PBA 評価制度およびサポート制度の確立

(3) 一般団体スポーツ団体ガバナンスコード対応への指導およびサポート

- ① PBA、WJBL、B3、JSB、JUBF におけるガバナンスコード対応への指導およびサポート

2. JBA 組織運営

(1) JAPAN BASKETBALL OFFICE の体制構築

- ① 関係団体間の事務局機能の連携強化、人材の交流促進
- ② 事務局人材の育成・強化

(2) 「JBS2021」の進捗管理

- ① JBS2021 に掲げる目標達成に向けた取り組み
- ② 経営戦略グループを中心とした、JBS2021 目標達成に向けた横断的かつ包括的な管理・サポート

(3) NF 向けスポーツ団体ガバナンスコード対応

- ① ガバナンスコード適合性審査に向けた対応

3. 代表関連

東京オリンピックを経て更に Japan's Way を浸透させるためにはユース時代からの一貫指導が必要であり、アンダーカテゴリー代表専任コーチと A 代表専任コーチが目指す方向性を共有し、長期的な選手育成・強化体制構築を目的とした「一気通貫プロジェクト」の具現化が必須である。

(1) A 代表

- 男子① ワールドカップやパリ五輪を見据えた一気通貫プロジェクトを基軸とした強化体制の構築
- 男子② フィジカル強化、スキル強化、サイズアップと国際強化試合の確保
- 女子① Japan's Way の考え方を軸に、メンタル（国際経験）、フィジカル、スキルを強化していく
- 女子② 日本国籍を有する海外在住の選手発掘と、帰化許可申請に関する整備の働きかけの継続

(2) アンダーカテゴリー代表

- 男子① アンダーカテゴリーの指導者の育成に力を注ぎ、選手は国際大会に出場し経験値を上げていく
- 女子① 大型選手の強化、ユースティティブレーヤーの養成、海外の日本人パスポート保持者のタレント発掘活動

(3) 3×3

- ① 3×3 と 5 人制のトップ選手（帰化選手含む）を共有する強化体制の構築
- ② 世界のトップチームがひしめく、欧州を中心とした強化活動の増加と大会参加を可能な限り進めていく

4. 国際関連

(1) FIBA/FIBA Asia との連携強化

- ① 渡航制限等の緩和により、実際に渡航する機会が増加することが予測され、2023 年の改選時の理事枠獲得等に向けたロビー活動を開始する。
- ② 国際移籍/FIBA 公式大会関連等

③ 男子アジアリーグ/女子アジアクラブチャンピオンズカップ構想

④ 会議等による情報収集・意見交換等

(2) 日本代表チーム支援

① 女子ワールドカップおよび男子ワールドカップに向けた世界強豪国との強化試合の調整等

(3) NFとの連携強化

① 既存のパートナーシップ提携国との関係強化

② 新たなパートナーシップ提携国の模索

③ 面会、会議等による交流の推進

(4) FIBA ワールドカップ 2023 に向けた支援

① LOC との連携およびノウハウ共有

(5) 国際交流・協力事業に向けた関連団体との連携強化

① JOC、JICA との事業展開の検討

② 駐日外国公館との交流

5. 育成関連

(1) 長期的視野に基づいた年代別育成方針/システムの確立

① ユース育成組織における一貫した情報伝達・発掘育成体制の強化

② ユース育成指導者/保護者に対する育成方針の周知・浸透

③ ユース育成指導者に対する年代別指導内容の反映・周知

④ U12/U15/U18 における育成視点での競技環境方針の具現化・提言

6. 指導者関連

(1) コーチ登録者数拡大に向けた施策

① 対象者別（女性コーチ、若手コーチ、アシスタントコーチ）の各施策の検討と推進

② ファーストスポーツ推進（キッズ関連事業、学校体育）に向けた取り組み

③ 都道府県指導者養成委員会の基盤整備および支援・協力体制の構築

(2) コーチライセンス制度の確立と質の向上

① 新たな S 級コーチ養成講習会実施に向けた講習プログラムの構築

② コーチデベロッパーの質の向上と人員確保に向けた取り組み

③ コーチライセンス別の適正なコーチ登録者数の検討および改善に向けた取り組み

(3) 指導現場におけるインテグリティの確保

7. 審判関連

(1) 審判・審判インストラクターライセンスの国内統一プログラム・カリキュラムの継続構築

① ライセンスに応じた講習会プログラムの継続構築

② インストラクターの育成。インストラクターの指導を通じた競技規則・審判技術の標準化

③ 全国統一の評価基準によるライセンス認定、評価の実施

④ 若手上級審判員の育成強化策の構築

⑤ トップリーグ担当審判員のレベルアップに向けたシステム構築

(2) 審判登録者拡大および多様性受容のための施策

① 女性審判員のライフプランに対応した環境整備

② U18 審判員の環境整備

③ 競技者、指導者のライセンス取得推進を通じた競技の理解促進

- ④ 審判間の相互尊重、審判の役割への尊重推進
- ⑤ 審判活動の魅力、競技規則の普及と理解促進のための発信

(3) 海外協会とのパートナーシップ提携も踏まえた人材交流の実施

8. 競技運営関連

(1) 日本代表戦/各種大会の価値向上ならびに安定的な大会運営

- ① コロナ感染状況に応じ随時適切な対策を講じた安心・安全な大会の開催
- ② 日本代表戦の価値向上および 2023 年 FIBA ワールドカップに向けた FIBA 主催試合の的確な遂行
- ③ 天皇杯・皇后杯の各ステークホルダーと連携した露出拡大
- ④ ウインターカップの認知度向上および収益性の拡大
- ⑤ Jr ウインターカップおよび全国ミニの安定的な運営
- ⑥ U18 リーグ戦（トップリーグ、ブロックリーグ）の協賛社・参加校・PBA と確りと連携した大会運営
- ⑦ 各大会のチケット収入の追求と券売プロモーション計画の策定
- ⑧ 各大会の戦略的・安定的なベニュー確保

(2) 各種大会の管理・サポート業務

- ① 競技会委員会の機能充実と各種競技会の管理体制の整備
- ② PBA 競技会委員会の活動（要項整備、国内競技会申請の徹底等）に対する支援体制の充実
- ③ JBA 以外の団体が主管する全国大会（国体、IH、全中等）の運営支援・連携の強化
- ④ 競技会委員会における競技会カレンダー調整機能の整備
- ⑤ 競技環境の充実に向けた各種規程の整備

(3) TO/スタッフ/コミッショナーの強化・育成・指導体制の確立（すべて 3x3 を含む）

- ① JBA/PBA の TO 委員会組織の体制強化
- ② 全国/ブロックにおける TO 講習会の実施
- ③ TO ライセンス制度導入および FIBA ライセンス取得へ向けた仕組みづくり
- ④ スタッフマニュアルの作成と全国への浸透
- ⑤ 2023 年 FIBA ワールドカップに向けた TO/スタッフのメンバー選考と育成
- ⑥ 国内主管大会にコミッショナー権限の明確化と設置大会の基準設定

(4) 3x3 競技の普及、競技環境の整備および日本代表強化へ繋がる競技大会の実施

- ① 日本選手権の大会価値向上、PBA における予選大会の開催支援
- ② 特に若年層（U12、U15、U18）および U23 世代の競技普及に向けた各種活動の強化
- ③ 競技者数の増加に向けた 3x3 登録制度の具体的方針の策定

(5) FIBA バasketボール・ワールドカップ 2023 に向け、LOC 事務局が主体となり、ステークホルダーと連携して準備を進める

- ① ステークホルダーと連携した大会運営体制の整備と実施計画の策定
- ② FIBA と連携し、協賛料収入や入場料収入の最大化に向けた具体的な計画を立案
- ③ 大会の認知度向上のための沖縄県および各市町村・男子日本代表戦・BLG・PBA と連携したプロモーション活動の実施
- ④ 大会予算の適宜見直しと適切な予算管理

9. 広報・プロモーション関連

(1) バasketボール界全体の露出強化

- ① 日本代表の価値向上に努める
- ② ウインターカップをはじめとする JBA 主管大会の価値向上に努める

- ③ 3x3 の競技普及および価値向上に向けた広報体制の強化
- ④ BLG/WJBL/PBA 他、ALL バスケ体制の広報連携
- ⑤ FIBA ワールドカップ 2023 成功に向けた大会 LOC との協働および機運醸成への寄与

(2) バasketボールの普及振興・競技者登録の推進に寄与する広報活動

- ① 『する』『みる』『ささえる』『携わる』方々に向けた情報の公開・伝達、および満足度向上
- ② 過去大会結果等、情報のコンテンツ化を促進

10. コンプライアンス関連

暴力暴言等の根絶に向けた具体的方針を策定し、より良いBasketボール環境を構築する。

(1) 暴力行為等通報窓口の周知および対応の充実

(2) 暴言暴力等の抑止の観点からの懲罰（裁定／規律）・再教育等の規程および運営体制の強化

- ① 抑止⇒インテグリティ委員会を中心に方針・コンテンツを作成し、暴力暴言等行為の抑止に関する各種施策を関連グループにおいて実施する
- ② 懲罰⇒都道府県協会等を含めた裁定／規律委員会での懲罰の適正化・迅速化を図る
- ③ 再教育等⇒指導者養成セクションが主体となり、指導者の倫理観を高めるとともに再発防止に向けたプログラムを構築する

(3) コンプライアンス意識の向上を目的とした、JBA 役職員や都道府県協会等に対する研修の実施

以上